

96条改正や集団的自衛権など、数多くの憲法論争が繰り広げられた2014年。なじみが薄い言葉が飛び交い、わかりにくい一連の論争を、憲法学者とタレントという異色の組み合わせで、ヘイトスピーチと表現の自由など今日的な話題を盛り込みながら軽妙に解説した一冊。しかも、違憲審査制、国民主権、選挙制度、戦争放棄などについて歴史的な文脈(コンテキスト)の精緻な考察も展開されている。分かりやすさを追求しつつも正確さを損なわない工夫が凝

憲法主義

内山奈月、南野森著

らされている。

「憲法主義」とは、憲法による支配という立憲主義の本旨を日本語の語感に合わせて言い換えたものである。立憲主義と民主主義は必ずしも両立しない。違憲審査制は民主主義と矛盾するという見方があるし、民主主義が人権を制限する場合もある。だからこそ私たち一人一人が憲法と真摯しんしに向き合わなければならぬ。問題提起を含んだ最良の憲法論議入門書だ。

(九大准教授 大賀哲)

IPH P研究所・1296円